

01

瀬戸研修にて技術を学ぶ

昨年、焼物の産地である愛知県「瀬戸」に泥漿（でいしょう）鑄込み用の型作りの勉強に行きました。泥漿鑄込みとは石膏で作られた型に泥を流し込んで品物を作る製法です。複雑な形や大量生産に向けた作り方になります。

研修に行く前に自作した石膏型は気泡が多く、使っているとすぐぼろぼろになってしまいました。原因は石膏粉に入れる水の割合や攪拌回数で、研修先の職人に聞いたことで判明しました。石膏を削る刃物の扱い方や作業のスピード感など、実際に見て一緒に作業することで新しい発見が多々ありました。

職人が普段使用している道具を使わせてもらった際、私の手には大きく力が入れづらいつきがありました。自分に合った道具を作ったり見つけることもものづくりに重要だと実感しました。



▲ 1 石膏で作った泥漿鑄込み用の型

02

学んだことを制作へ

▲ 1 にある型で鑄込んだものが ▲ 2 になります。型から取り出したばかりで、水分を多く含んでいて柔らかいです。こちらを乾燥させて素焼きしたものに、絵付けや釉薬をかけて焼いたものが ▲ 3 です。手乗りサイズの置物で、試作段階のものになります。会津の民芸品である「起き上がり小法師」を焼物で作りたいと思い試作に励

んでいます。他にも焼物アクセサリなど、将来オンライン販売に向けた商品作りやアイデア出しをする機会が増えた協力隊任期 2 年目となりました。最期の 1 年間も充実した内容となるよう、イベント参加やものづくりに力を入れて活動していきたいと思います。



▲ 2 泥漿鑄込みで作ったもの



▲ 3 鑄込んだものに釉薬をかけて焼いたもの

今月の協力隊

さとう まや
佐藤 真也

会津本郷焼技術継承の協力隊です。今年の 4 月で任期 3 年目に入りました。卒隊後は引き続き流紋焼で学びながら、自分の作品作りに励みたいと思います。



★地域おこし協力隊の活動報告やお知らせを行うページです。